

要支援の高齢者を対象とした、「荒尾市からだ元気教室」と



連携したモビリティ・マネジメント実証実験



伊藤 信也 荒尾市 総合政策課
高木 大地 荒尾市 地域包括支援センター

内村 圭佑 日本工営(株)福岡支店
北尾 昌平 (株)ともいき Labo

1. 背景と目的

【これまでの取組】

H30年度からアクティブシニアを対象とし、体操教室会場などを訪問。参加者の行動パターンに応じた公共交通の利用提案やフィードバック調査等のフルセットTFPによる**参加者一人ひとりに寄り添うSMM(執念のMM)**により、高い転換効果(参加者の約10%)を確認。



対象者 4年間合計 **893人**

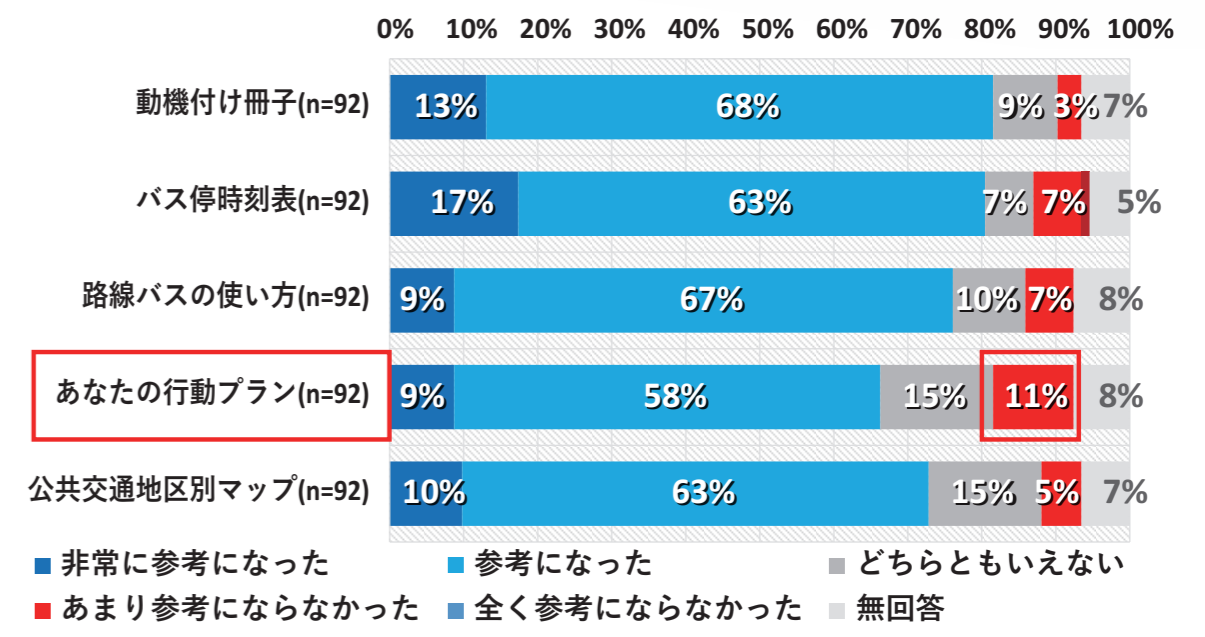
(H30:355人、R1:216人、R2:168人、R3:154人)

【課題】

高い転換効果が発現された反面、参加者にとって参考になった利用促進ツールは、「バス時刻表」「動機付け冊子」「路線図」。参加者一人ひとりに寄り添った「あなたの行動プラン」は参加者にとって貢献度が相対的に低い結果に。

手間暇かけることも重要だが、**もっと効率的かつ効果的なMMの手法があるのでは？**

R3年度事後調査より利用促進ツールの感想



【目的】

これまで健康づくりMMでは、ターゲットを「アクティブシニア」としていた。

R5年度よりターゲットを「**要支援1、要支援2の高齢者で、市の健康づくり施策『荒尾市からだ元気教室(通所型サービスC:地域包括支援センター主催)※』参加者へ切替え、簡易型TFPを試行し、より簡便な手法で効果を最大化する手法を見極めることを目的に実証実験を行った。**

※「荒尾市からだ元気教室」とは、主に要支援1、要支援2の体力に自信がなくなった方に向け、自分でできることを増やすための介護予防プログラムを実施する教室。教室に3ヵ月通うことで、買い物や通院など日常生活を高年齢者自身で行えるようになることを目標としている。



2. プロジェクトの内容

① 地域包括支援センター・教室運営事業者との連携

- 荒尾市総合政策課(公共交通所管課)と保険介護課地域包括支援センター(からだ元気教室所管課)、教室運営受託事業者(株式会社ともいきLabo)で連携
- からだ元気教室参加者へあらかじめ日常的な生活状況を調査する内容とMM事前調査票の内容のすり合わせを実施し重複した設問が、無いように調整

② 荒尾市からだ元気教室で事前調査

- 「荒尾市からだ元気教室」の新規参加者10名に対し、初回教室にて公共交通の使い方やメリットを紹介
- 現在の移動に関する状況を聞き取り(事前調査)
- 教室実施期間(3か月間)に路線バスに2回乗車可能な「**お試し乗車券**」を配布

③ 3か月後事後調査の実施

- 3か月後の教室最終回において、**公共交通利用状況の変化を聞き取った(事後調査)**

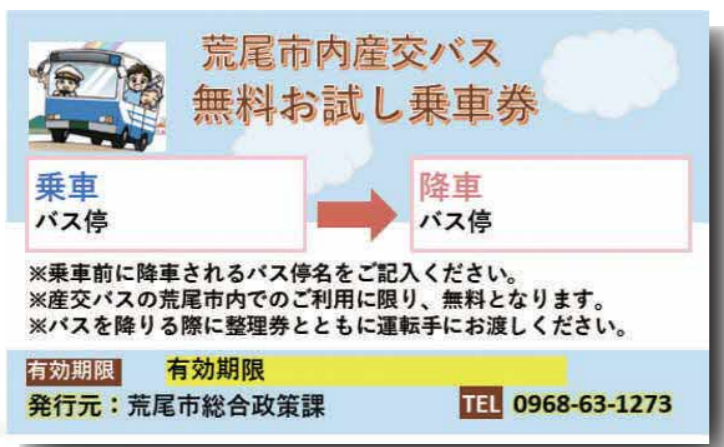


3. 効果

参加者 **10名中4名**の方が
お試し乗車券を利用

参加者 **10名中2名**の方が
市福祉特別乗車証の申し込み

参加者 **10名中4名**の方が
公共交通を日常的に利用する意向



※70歳以上の市民が路線バスを100円で乗車可能な施策



4. 結論・今後の展開

からだ元気教室とMMの相性は良い!

- 要支援者を対象にしたことで、免許返納のタイミングとも重なる方も多く、移動手段について**自分事として考える参加者が多い**・ちょうど良いタイミングで公共交通の情報提供を行い、お試し乗車券でお試し乗車を促すことで、参加者間で公共交通利用の雰囲気醸成・からだ元気教室とモビリティ・マネジメントはどちらも「**自家用車に依存しない自力でのお出かけ**」を目標としており相性が良い

R6年度以降もからだ元気教室と一体化したMMを実施

- からだ元気教室のプログラムの一環としてモビリティ・マネジメントを積極的に取り入れ
- からだ元気教室の限られた時間を有効に活用し、かつ公共交通のメリットや利用方法の説明を属人的にならず誰でも行えるように「**説明動画**」を作成し更なる効率化を実施
- 今後も毎年数十名を対象に簡易型TFPを実施し公共交通利用を増加させる